

Oracle® GoldenGate Director

管理者ガイド

11g リリース 1 (11.1.1.1)

B65092-01(US P/N: E21515-01)

2011 年 9 月

ORACLE®

Oracle GoldenGate 管理者ガイド 11g リリース 1 (11.1.1.1)

B65092-01

Copyright © 1995, 2011 Oracle and/or its affiliates.

All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（*redundancy*）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

.....

第 1 章	Oracle GoldenGate Director の概要	2
第 2 章	システム要件とインストール	4
	システム要件	4
	Oracle GoldenGate Director Server のインストール	6
	Oracle GoldenGate Director Server の制御	9
	Oracle GoldenGate Director Client のインストール	10
	Oracle GoldenGate Director Client の起動	11
	Oracle GoldenGate Director Web の起動	11
	アップグレードとアップデート Oracle GoldenGate Director	11
	Oracle GoldenGate Director のアンインストール	12
第 3 章	Oracle GoldenGate Director の構成	14
	Oracle GoldenGate Director Server の構成	14
	SSL の構成	19
付録 1	Java Runtime Environment (JRE) のダウンロード	22
索引	25

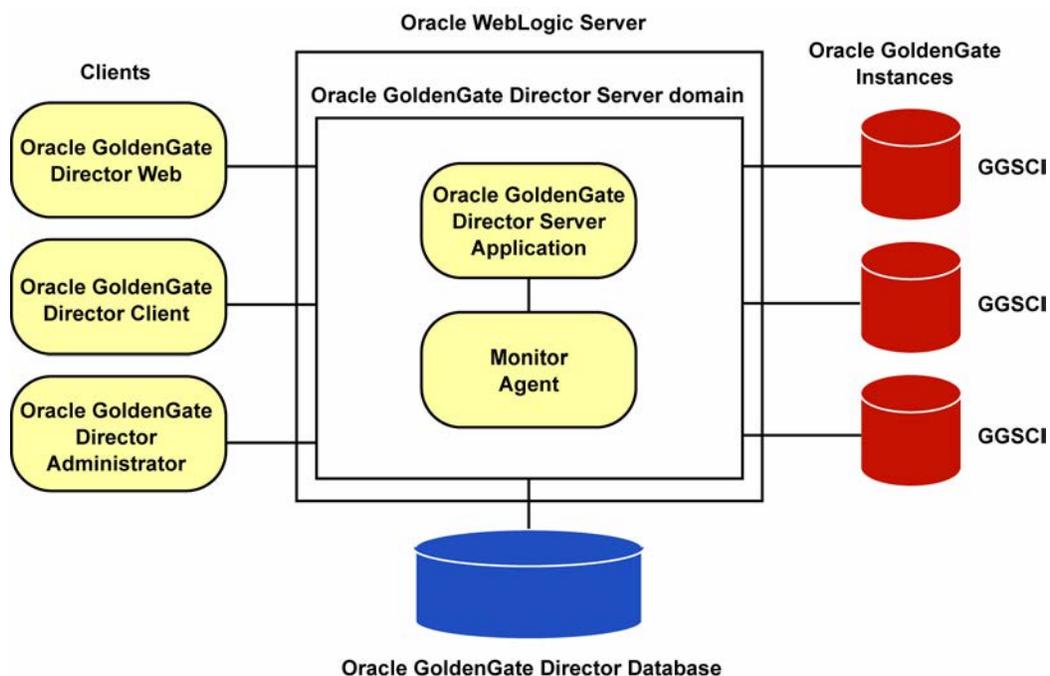
.....

第 1 章

Oracle GoldenGate Director の概要

.....

Oracle GoldenGate Director はリモート・クライアントから Oracle GoldenGate インスタンスの構成管理を可能にする複数層クライアント / サーバー・アプリケーションです。Oracle GoldenGate Director は次のダイアグラムに示すコンポーネントから構成されています。



Oracle GoldenGate インスタンス

Oracle GoldenGate Manger プロセスの各インスタンスはホストの完全修飾ドメイン名、Manager がリッスンしているポートとユーザー定義データソース名によって Oracle GoldenGate Director 内で識別されます。Manager プロセスはデータベースに関連しているため、この組合せは Oracle GoldenGate Director Client アプリケーション内のデータソースとして識別されます。

.....

Oracle GoldenGate Director Server

Oracle GoldenGate Director Server により Oracle GoldenGate インスタンスの管理が調整されます。Oracle GoldenGate Director Server は、Oracle WebLogic Server ドメインとしてインストールされます。

Oracle GoldenGate Director Server には次のアプリケーションが含まれます。

- Oracle GoldenGate Director Server アプリケーションは、セキュリティ、ホスト情報サービス、オブジェクト・モデリング、ダイアグラミング、統合されたイベント・ロギング、アラート・サービスを制御するサービスの集合です。
- モニター・エージェントは、GGSCI (GoldenGate Software Command Interface) の専用のセッションを確立する Oracle GoldenGate ホストへのクライアントです。接続はプロセス・ステータスとイベント情報を取得するために使用されます。Oracle GoldenGate Director Server は、監視されている各 Oracle GoldenGate インスタンスの Oracle GoldenGate Manager ポートを介してエージェントに接続されます。

Oracle GoldenGate Director データベース

Oracle GoldenGate Director Server は、中央リポジトリとしてデータベースを使用し、ユーザーとグループ、ユーザーが作成したグラフィカル・ダイアグラム、統合されたイベントおよびその他の情報についての情報を保管します。ユーザーはシステム上のどの Oracle GoldenGate Director Client にもログインでき、ネットワークの格納されたビューを取得できます。

Oracle GoldenGate Director Client

Oracle GoldenGate Director Client は Oracle GoldenGate Director Server のクライアントアプリケーションで、Oracle GoldenGate インスタンスを管理するグラフィカル・ユーザー・インタフェース (GUI) を提供します。クライアントは Java をサポートするどのプラットフォーム上でも実行でき、ドラッグ・アンド・ドロップ、メニューとツールバー、デスクトップ・アプリケーションで想定されるその他の機能が実行可能です。

Oracle GoldenGate Director Web

Oracle GoldenGate Director Web は、Oracle GoldenGate Director Server 内でホストされる Web アプリケーションです。クライアント・システム上にソフトウェアをインストールせずに、Oracle GoldenGate インスタンスの監視と制御をリモートのブラウザ・ベースで実行できます。

Oracle GoldenGate Director Administrator

Oracle GoldenGate Director Administrator は Oracle GoldenGate Director Server のクライアントであり、Oracle GoldenGate Director Server の構成のために使用されます。Administrator により Oracle GoldenGate インスタンスとユーザーの追加と削除ができ、Oracle GoldenGate Director の全体的な構成の管理が可能です。

第 2 章

システム要件とインストール

.....

システム要件

サポートされているプラットフォーム

- Oracle GoldenGate Director は、現在の Oracle GoldenGate サポート・ポリシーが適用される Oracle GoldenGate ソフトウェアのバージョンと互換性があります。
- Oracle GoldenGate インスタンスをホスティングしているすべてのシステムは、Domain Name Server (DNS) に登録される必要があります。

Oracle GoldenGate Director Server

ハードウェア

- システムには、1GB の RAM および 1GB から 1.5GB (推奨) 以上の空きディスク領域が必要です。
- インストール・プロセス中に選択した HTTP ポートは、Oracle GoldenGate Director Server 専用にする必要があります。デフォルト・ポートは 7001 です。デフォルトの SSL ポートは 7002 です。
- 次のオペレーティング・システムは Oracle GoldenGate Director Server に対して動作保証されています。
 - Windows x86、x64
 - Redhat x86、x64
 - Solaris
 - HPUX
 - AIX

セキュリティ

Oracle GoldenGate Director Server は、それぞれの Manager ポートを介してリモートの Oracle GoldenGate インスタンスに接続されます。ファイアウォールが Oracle GoldenGate ネットワーク内に存在する場合は、次の手順を実行します。

1. 各 Manager パラメータ・ファイルの DYNAMICPORTLIST パラメータを使用して、使用可能なポートのリストを指定します。使用方法および構文は、プラットフォームに応じて『Oracle GoldenGate Windows and UNIX リファレンス・ガイド』または Oracle GoldenGate HP NonStop のリファレンス・ガイドを参照してください。
2. これらのポートと Manager ポート、および Oracle GoldenGate Director Server HTTP ポートをファイアウォール越しに開きます。

ソフトウェア

- Java Runtime Environment (JRE) バージョン 6 (1.6.x) は、Oracle GoldenGate Director Server がインストールされるシステムで使用可能である必要があります。システム上にこの環境がない場合は、22 ページの付録 1 を参照してください。
- Java 1.6 (6.0) Runtime Environment はオペレーティング・システムが Java 1.6 (6.0) 実行環境をサポートできる必要があります。これは Oracle GoldenGate Director Server インストーラとソフトウェアによってインストールされ使用されます。
- Oracle GoldenGate Director Server をインストールする前に、Oracle WebLogic Server 11g (10.3.1、10.3.2、10.3.3、10.3.4 または 10.3.5) Standard Edition をインストールしておく必要があります。Oracle WebLogic Server は Oracle の JavaEE アプリケーション・サーバーです。このソフトウェアのインストール方法は、製品のドキュメントに記載されている指示に従ってください。このバージョンの Oracle WebLogic Server のインストールは、システム上にある Oracle Weblogic Server の他のバージョンと競合しません。

注意 Oracle GoldenGate Director Server 用のドメインを作成する必要はありません。ドメインは、インストール・プログラムにより Oracle GoldenGate Director インストール・ディレクトリに直接作成されます。

- Oracle GoldenGate Director Server では、ユーザー・プリフェレンスや Oracle GoldenGate インスタンスに関する情報など、作業中のデータが含まれる表の小さなリポジトリの保持にデータベースが使用されます。Oracle GoldenGate Director Server インストーラを実行する前に、データベースがインストールおよび構成され、稼働している必要があります。このデータベースには、次のいずれかを使用できます。
 - MySQL 5.x Enterprise バージョン インストーラにより、このデータベースの無料トライアル版へのリンクが表示されます。トライアル版のデータベースをインストールして起動したら、インストーラに戻ることができます。
 - SQL Server 2005 および 2008
 - Oracle 9i 以上

リポジトリを作成して移入するために、選択したデータベースへの JDBC 接続がインストーラによって確立されます。これは Oracle WebLogic Server に含まれる JDBC ドライバ jar によって提供されます。
- UNIX または Linux システムで Oracle GoldenGate Director Server インストーラを使用するためには、X Window のようなウィンドウ・システムを使用できる必要があります。
- Oracle GoldenGate Director Server オブジェクトとデータ用に、データベースに 200MB 以上の空き領域が必要です。インストーラにより、次の表と対応する索引を作成されます。

ACCOUNTB	GROUPB
ACLB	HOSTINFOB
ACLENTRYB	LOGENTRYB
ACNTGROUPREL	MANAGERREFB
ACNTPROPB	MONAGENTB
ACONPROCSB	NODESTATEB
ACONWATCHB	OBJECTSTATEB
ALERTB	STAGEB
AUTOINCB	STATSENTRYB
CONTCACHEB	SUFFIXB
GDSCVERS	UISPROPB

Oracle GoldenGate Director Client

- Oracle GoldenGate Director Client は、Oracle GoldenGate Director Server と同じバージョンである必要があります。クライアントは、サーバー・ソフトウェアにパッケージされています。10 ページの「Oracle GoldenGate Director Client のインストール」を参照してください。異なるバージョンのクライアントとサーバーを使用した場合、エラーが返されます。
- クライアント・ホストは、次のような Windows または UNIX プラットフォームである必要があります。
 - Java Runtime Environment (JRE) バージョン 6 をサポートします。
 - Oracle GoldenGate Director Server ホストと同じネットワークに存在します。
- 各クライアント・ホストに Java Runtime Environment (JRE) バージョン 6.0 をインストールします。同じコンピュータにクライアントをインストールする場合、Oracle GoldenGate Director Server とともにインストールされた JRE を使用できます。JRE をインストールする必要がある場合は、22 ページの付録 1 を参照してください。
- クライアント・ホストのモニターには、1024 x 768 ピクセル以上の解像度（画面サイズ）が必要です。推奨される解像度は 1280 x 1024 以上です。

Oracle GoldenGate Director Web

Oracle GoldenGate Director Web は次の Web ブラウザをサポートします。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以上
- Mozilla Firefox バージョン 2.0 以上

Oracle GoldenGate Director Web 用にクライアント・システムにインストールされるソフトウェアはありません。

Oracle GoldenGate Director Server のインストール

これらの方法は新規インストールに適用されます。アップグレードについては11ページを参照してください。

新規インストールは次の手順が含まれます。

- [データベース・ストレージとログイン資格証明の割当て](#)
- [Oracle GoldenGate Director Server ソフトウェアのインストール](#)

データベース・ストレージとログイン資格証明の割当て

Oracle GoldenGate Director Server を初めてインストールする前に、リポジトリのためのストレージ・ロケーションを割り当て、Oracle GoldenGate Director が使用できるようデータベース・ログイン資格証明を割り当てる必要があります。既存のオブジェクトを使用するか新しいオブジェクトを作成できます。

表 1 Oracle GoldenGate Director Server のための必要なデータベース権限

MySQL
<ol style="list-style-type: none">1. ユーザーおよび同名のデータベースを作成します。パスワードは 8 文字以上のアルファベットを含み、1 文字以上のアルファベットと 1 つ以上の数字を含む必要があります。2. ユーザーが、Oracle GoldenGate Director がインストールされているホストから MySQL サーバーに接続する場合、このユーザーにデータベース上でのすべての DDL と DML の権限を付与します。
Oracle
<ol style="list-style-type: none">1. ユーザー（スキーマ）とパスワードを作成します。パスワードは 8 文字以上のアルファベットを含み、1 文字以上のアルファベットと 1 つ以上の数字を含む必要があります。2. ユーザーのデフォルト表領域で QUOTA UNLIMITED を指定します。
SQL Server
<ol style="list-style-type: none">1. データベースまたはスキーマを作成し、リポジトリをインストールするデータベースのユーザーのログインを作成します。パスワードは 8 文字以上のアルファベットを含み、1 文字以上のアルファベットと 1 つ以上の数字を含む必要があります。2. 次の操作を行うため、このログインに十分な権限を付与します。 データベースへの CONNECT データベースでの CREATE、ALTER および DROP TABLE データベースでの CREATE および DROP INDEX データベース上の表で INSERT、UPDATE、DELETE データベースの表で SELECT ログインのデフォルト・スキーマの ALTER SCHEMA

Oracle GoldenGate Director ソフトウェアのダウンロード

1. <http://edelivery.oracle.com> に移動します。
2. 「ようこそ」 ページで次の操作を実行します。
 - 言語を選択します。
 - 「続行」 をクリックします。
3. 「輸出確認」 ページで次の操作を実行します。
 - 識別情報を入力します。
 - 「トライアル・ライセンス契約」（永続ライセンスを所有している場合でも）を受け入れます。
 - 「輸出規制」を受け入れます。
 - 「実行」 をクリックします。
4. 「メディア・バック検索」 ページで次の操作を実行します。
 - 「Oracle Fusion Middleware」 製品パックを選択します。
 - ソフトウェアをインストールするプラットフォームを選択します。
 - 「実行」 をクリックします。

5. 「結果リスト」で次の操作を実行します。
 - 「Management Pack for Oracle GoldenGate Media Pack」を選択します。
 - 「続行」をクリックします。
 6. 「ダウンロード」ページで次の操作を実行します。
 - 必要な各コンポーネントで「ダウンロード」をクリックします。自動ダウンロード・プロセスに従って、mediapack.zip ファイルをシステムに転送します。
- 注意** ソフトウェアをインストールする前に、リリース・ノートで、現在の構成に影響を与える新機能、新要件またはバグ修正について確認します。

Oracle GoldenGate Director Server ソフトウェアのインストール

1. 他のアプリケーションを閉じます。
2. ggdirector-serversetup_<version> を実行します。
3. 「Welcome」画面：最初の画面で「Next」をクリックします。

注意 Oracle WebLogic Server をインストールしていない場合は、「Cancel」をクリックするとインストールが終了します。詳細は 4 ページの「システム要件」を参照してください。Oracle GoldenGate Director は、Oracle WebLogic Server ドメインとしてインストールする必要があります。
4. **Choose Installation Location:** Oracle GoldenGate Director のインストール・ディレクトリを作成する場所を入力するか参照します。画面に表示される要件に合う空きディスク領域が十分あるか確認します。
5. **Weblogic Location:** wlserver_10.3.x ディレクトリのすぐ上にある Oracle WebLogic Server のインストール・ディレクトリ内にあるディレクトリを入力するか参照します。たとえば、デフォルトのインストールでは、Oracle という名前のディレクトリの下の中 Middleware を選択します。
6. **HTTP Port:** Oracle GoldenGate Director Server が Oracle GoldenGate Director Web と通信するために使用する HTTP ポートを確認または変更します。ほとんどの場合、デフォルトの 7001 で十分です。
7. **Database:** Oracle GoldenGate Director Server リポジトリとして使用するデータベースのタイプを選択します。データベースまたはスキーマ（適用可能）およびユーザー・アカウントが必要で、正しく構成されており、インストールの前に実行される必要があります。Oracle GoldenGate Director の以前のバージョンからのリポジトリを使用して、既存のデータソース構成、ユーザー・アカウントおよび環境を保持できます。
8. **(オプション、MySQL のみ)** MySQL Enterprise Edition を使用するには、リンクをクリックして Oracle GoldenGate Director リポジトリとして使用するフリーのトライアル版をダウンロードします。MySQL のインストールおよび起動中はインストーラを実行したままにし、完了したら戻ります。
9. **Database driver configuration:** Oracle GoldenGate Director Server がリポジトリ・データベースに接続できるようにするには、次の情報を入力します。
 - データベース・ホスト・サーバーの名前。
 - データベースの名前または Oracle データベースを使用する場合の Oracle SID。
 - データベースのポート番号。選択されたデータベースのデフォルトのポート番号がインストーラによって表示されます。

10. **Database User:** データベースにログオンするために使用する既存のデータベース・ユーザーまたはアカウントの名前とパスワードを入力します。既存の Oracle GoldenGate Director Server リポジトリを使用するには、データベースまたはスキーマを所有するユーザーの資格証明を使用します。この資格証明は Oracle GoldenGate Director Server 内の認証を確立するために使用されます。パスワードは暗号化されて保存されます。パスワードが 8 文字以上のアルファベットを含み、1 文字以上のアルファベットと 1 つ以上の数字を含んでいることを確認します。
11. (Windows) **Oracle GoldenGate Director Service:** オプションで、Oracle GoldenGate Director Server を Windows サービスとしてインストールできます。「サービスとしてインストール」(デフォルト)を選択し、サービスの名前と説明を入力します。システム上に Oracle GoldenGate Director のインストールが複数存在する場合、各サービス名は一意にする必要があります。**注意:** インストーラにより Weblogic Domain サービスが作成されるので、指定したサービス名の前には **beasvc** という接頭辞が、後にはホスト名がそれぞれ付加されます。たとえば、デフォルトのサービス名 **oggdirector** が使用される場合、サービス名は **beasvc oggdirector_localhost** になります。
12. **Pre-installation summary:** インストールの入力内容を確認し、変更がある場合は「Back」を、インストールを再開する場合は「Next」をクリックします。
13. 「Finish」をクリックし、インストーラを閉じます。

Oracle GoldenGate Director Server の制御

注意: 初回インストール後初めて Oracle GoldenGate Director Server を起動するとき、フリーズしたような状態になり、起動するのに時間がかかる場合があります。これは正常です。

コマンドラインからの Oracle GoldenGate Director Server の起動と停止の手順

1. Oracle GoldenGate Director Server インストール・ディレクトリへ移動します。
2. 次のプログラムを使用します。

表 2 Oracle GoldenGate Director Server の制御コマンド

アクション	Windows コマンド	UNIX と Linux コマンド
フォアグラウンドで起動	domain\startWebLogic.cmd ¹	domain/startWebLogic.sh または directorControl.sh start
バックグラウンドで起動	(使用不可)	directorControl.sh -b start
停止	domain\bin\stopWebLogic.cmd	domain/bin/stopWebLogic.sh または directorControl.sh stop
バックグラウンドで起動し、 ファイルにリダイレクト	(使用不可)	directorControl.sh -b start <out_file>

¹ startWebLogic プログラムが複数ある場合があります。必ず、<domain> ディレクトリでそのプログラムを使用してください。

コマンド・コンソールは開いたままにしておく必要があります。Oracle GoldenGate Director Server はコマンド・コンソールが閉じると動作を停止します。

3. (オプション) 自動的に Oracle GoldenGate Director Server が起動と停止するようホストを設定します。必要に応じてシステム管理者にご連絡ください。

Windows の「プログラム」メニューからの Oracle GoldenGate Director Server の起動と停止の手順

Windows の「スタート」メニューから「プログラム」>「Oracle GoldenGate Director Server」をクリックし、「Start Oracle GoldenGate Director」または「Stop Oracle GoldenGate Director」のどちらかを選択します。

Oracle GoldenGate Director Server Windows サービスの開始および停止

1. 「コントロール パネル」の「サービス」を開きます。
2. 次の内の 1 つを実行します。
 - サービス名を選択し、左上隅の「サービスの開始」または「サービスの停止」をクリックします。
 - サービス名を右クリックし、コンテキスト・メニューから「開始」または「停止」を選択します。

Oracle GoldenGate Director Client のインストール

これらの方法は新規インストールに適用されます。アップグレードについては 11 ページの「アップグレードとアップデート Oracle GoldenGate Director」を参照してください。

クライアントのバージョンがサーバーのバージョンと同じであることが必要です。クライアントをインストールするには、Oracle GoldenGate Director Server に接続するために使用される Windows、Linux または UNIX ワークステーションのすべてで、これらの手順に従ってください。

1. クライアントのコンピュータに Java Runtime Environment をインストールしていない場合、先にこの手順を行います。Oracle GoldenGate Director Server と同じコンピュータにインストールする場合、その JRE を使用できます。
2. Oracle GoldenGate Director Server を起動します。
3. すべての Windows アプリケーションを閉じます。
4. インターネット・ブラウザを起動し、次のアドレスを入力します。

`http://<hostname>:<port>/`

条件: <hostname> は、Oracle GoldenGate Director Server をホストするコンピュータの完全修飾名か IP アドレスで、<port> は Oracle GoldenGate Director Server のポート番号です (デフォルトは 7001)。

注意 ホスト名として "localhost" を使用しないでください。起動時に、正しい名前と IP アドレスが Oracle WebLogic Server コンソールに表示されます。例として次のように表示されます。

`http://dirhost.mycompany.com:7001/acon`

5. クライアントのプラットフォームに適切な ggdirector-clientsetup_<platform> ビルドをダウンロードし、ワークステーションに保存します。
6. ワークステーションからプログラムを実行します。インストーラにより選択するオプションが表示されます。
 - インストール・ディレクトリ
 - (Windows) クライアントを起動する Windows のショートカットの場所。

Oracle GoldenGate Director Client の起動

1. 次のように起動プログラムを実行します。
 - UNIXでは、インストール・ディレクトリのbinサブディレクトリからrun-director.shを実行します。
 - Windows では、インストール・ディレクトリまたはインストール時に指定したショートカットから GoldenGate-Director.exe を実行します。
2. ログイン・プロンプトで次の入力を行います。
 - Oracle GoldenGate Director admin ユーザーの名前とパスワード
 - Oracle GoldenGate Director Server が稼働しているサーバーの名前またはIPアドレス、続けてコロン (:)、sysa:7001 など、サーバー・コンポーネントが稼働している HTML ポート (デフォルトは 7001)。

Oracle GoldenGate Director Web の起動

注意 このクライアントを使用する前に、Oracle GoldenGate Director Administrator を使用して Oracle GoldenGate Director Server にユーザー・アカウントと接続情報を追加する必要があります。第 3 章を参照してください。

Oracle GoldenGate Director Web を起動するには、サポートされている Web ブラウザを起動し、アドレス・バーに次の情報を入力します。

```
http://<server_name>:<port>/acon/
```

条件: <system name> は完全修飾名または Oracle GoldenGate Director Server がインストールされているシステムの IP アドレスです。<port> は Oracle GoldenGate Director Server ポートです (デフォルトは 7001)。

注意 ホスト名として "localhost" を使用しないでください。起動時に、正しい名前と IP アドレスが Oracle WebLogic Server コンソールに表示されます。

```
http://dirhost.abc.com:7001/acon
```

アップグレードとアップデート Oracle GoldenGate Director

ソフトウェアのアップグレード

バージョン 2.0 および 11.1.1.0 からのアップグレード: バージョン 2.0 または 11.1.1.0 からバージョン 11.1.1.1 にシームレスにアップグレードできます。すべてのインストール・ファイルがアップグレードされ、現在のデータベース・リポジトリに保存できます。アップグレードするには、インストーラを起動し、アップグレード・オプションを選択します。

バージョン 1.4 からのアップグレード: Oracle GoldenGate Director Server バージョン 2.0 以上は Oracle WebLogic Server 内にインストールされるので、古いインストール・ファイルが新しいファイルにアップデートされるという意味では、バージョン 1.4 からの直接のアップグレード・パスは存在しません。ただし、新しいインストール環境を現在のデータベース・リポジトリに指定することはできます。そのため、ユーザー・アカウント、環境、データソースが保存され、Oracle GoldenGate Director Client には、アップグレードはシームレスに行われます。

現在のリポジトリを指定するには、6 ページの「Oracle GoldenGate Director Server のインストール」の説明に従いますが、次の手順を実行します。

- 現在のリポジトリを含むデータベース・タイプを選択します。

注意 MySQL リポジトリは、MySQL の Enterprise 版である必要があります。

- 現在のリポジトリ・データベースの正しいデータベース・ドライバ情報を選択します。
- データベースまたはスキーマと現在のリポジトリを所有するユーザーを選択します。**注意** : Oracle WebLogic Server では、パスワードに、アルファベットと数字を少なくとも 1 つずつ含む、8 文字以上の英数字を使用する必要があります。この要求に応えるために現在のパスワードを変更する必要がある場合があります。

アップグレードのサポートが必要な場合は、<http://support.oracle.com> の Oracle サポートのサービス・リクエストを開いてください。

Oracle GoldenGate Director のアンインストール

Oracle GoldenGate Director Server のアンインストール

UNIX システムからのサーバーのアンインストール

1. Oracle GoldenGate Director Server を停止します (9 ページを参照)。
2. Oracle GoldenGate Director Server インストール・ディレクトリから `uninstall` スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ログ・ファイル、XML ファイル、ショートカットおよびリポジトリ表以外のインストールがすべて削除されます。

Windows システムからのサーバーのアンインストール

1. Oracle GoldenGate Director Server を停止します (9 ページを参照)。
2. Oracle GoldenGate Director Server Windows サービスのみを削除するが、インストールをそのまま残すには、Oracle GoldenGate Director Server インストール・ディレクトリから `uninstallDirSvc.cmd` プログラムを実行します。
3. Oracle GoldenGate Director Server を完全にシステムから削除するには、「**プログラム**」メニューの Oracle GoldenGate Director Server のショートカットが存在する場合は、そこから「**Uninstall Director Server**」を、存在しない場合は Oracle GoldenGate Director Server のインストール・ディレクトリから `uninstall.exe` を実行します。これにより、Windows サービス (該当する場合) と、インストール後に作成されたもの以外のインストール済ファイルがすべて削除されます。

Oracle GoldenGate Director Client のアンインストール

UNIX システムからのクライアントのアンインストール

1. Oracle GoldenGate Director Client を停止します。
2. Oracle GoldenGate Director Client インストール・ディレクトリから `uninstall` スクリプトを実行します。このスクリプトにより、インストール内のすべてのファイルが削除されます。ファイルが削除されない場合は、結果出力で通知されます。
3. インストール・ディレクトリを削除します。

Windows システムからのクライアントのアンインストール

1. Oracle GoldenGate Director Client および Oracle GoldenGate Director Administrator (稼働中の場合) を停止します。
2. 「プログラム」メニューに Oracle GoldenGate Director Client のショートカットが存在する場合は、このショートカットから **Uninstall GoldenGate Director.exe** を、存在しない場合は Oracle GoldenGate Director Client のインストール・ディレクトリから **uninstall.exe** を実行します。アンインストーラにより、すべてのファイルおよびフォルダが、インストール・ディレクトリから削除されます。
3. インストール・ディレクトリを削除します。

第 3 章

Oracle GoldenGate Director の構成

.....

この章では、Oracle GoldenGate インスタンスを表示するためにクライアントが安全に Oracle GoldenGate Director Server に接続できるように Oracle GoldenGate Director を設定する方法について説明します。

Oracle GoldenGate Director Server の構成

Oracle GoldenGate Director Server を構成するには、Oracle GoldenGate Director Administrator プログラムを使用します。次の設定が可能です。

- 管理者情報とパスワードの変更
- ユーザー・アカウントの管理
- データソースの管理
- モニター・エージェントの構成
- デフォルトのドメイン接尾辞の設定

Oracle GoldenGate Director Administrator を起動する手順

1. プラットフォームに応じて次の内の 1 つを実行します。
 - (UNIX) インストール・ディレクトリから **run-admin.sh** スクリプトを実行します。
 - (Windows) Oracle GoldenGate Director Client ディレクトリの **bin** サブディレクトリから GDSC Admin Tool.exe を実行するか、または「**プログラム**」ショートカットを使用します。
2. ログイン・プロンプトで次の情報を入力します。
 - admin ユーザーの名前とパスワード
 - Oracle GoldenGate Director Server が稼働しているホストの名前または IP アドレス、続けてコロン (:)、sysa:7001 など、サーバー・コンポーネントが稼働している HTML ポート (デフォルトは 7001)。

Oracle GoldenGate Director Administrator を初めて実行する場合、パスワードは admin にして admin としてログインします。セキュリティ上の理由で admin パスワードを変更する必要があります。admin ユーザーについての他の情報を入力または変更することも可能です。15 ページの「ユーザー・アカウントを変更する手順」を参照してください。

.....

ユーザー・アカウントの管理

Oracle GoldenGate Director Client のすべてのユーザーは、Oracle GoldenGate Director Server のアカウントが必要です。Oracle GoldenGate Director ユーザー・アカウントを管理するには、**Accounts** タブを使用します。

ユーザー・アカウントを追加する手順

1. **Accounts** タブの下部にある **New/Clear** をクリックします。
2. **Account Info** の下にユーザー名を入力します。(必須)
3. **Contact** の下にユーザーの電話番号と電子メール・アドレスを入力します。(オプション)
4. **Name** の下にユーザー名を入力します。(オプション)
5. **Password** の下で、ユーザーの Oracle GoldenGate Director ログイン・パスワードを入力して確認します。(必須)
6. **「Save」** をクリックします。**UserID** リストにユーザーが追加されます。

ユーザー・アカウントを変更する手順

1. **Accounts** タブの **UserID** リストで、情報を変更するユーザーを選択します。
2. 必要に応じて、**Account Info**、**Contact**、**Name** および **Password** で情報を変更します。
3. **「Save」** をクリックします。

ユーザー・アカウントを削除する手順

1. **Accounts** タブの **UserID** のリストで、削除するユーザーを選択します。この処理を確認するよう求められます。
2. アカウントを削除するには、**Delete** をクリックします。
3. **「Save」** をクリックします。

Oracle GoldenGate データソースの管理

Oracle GoldenGate Director Client から Oracle GoldenGate インスタンスを表示するには、接続情報が Oracle GoldenGate Director Server リポジトリに保存されている必要があります。ユーザーはクライアント内のパーソナル・ビューに定義済みのインスタンスを追加できます。Oracle GoldenGate インスタンスが *data sources* としてクライアントのダイアグラムに表示されます。

Data Sources タブを使用して Oracle GoldenGate インスタンスについての情報を管理します。データソースとして Oracle GoldenGate インスタンスを追加することにより、**Manager** プロセスについての情報が Oracle GoldenGate Director データベース・リポジトリに追加されます。

Oracle GoldenGate データソースを追加する手順

1. データソースとして追加する Oracle GoldenGate インスタンスの **Manager** プロセスを起動します。
2. **Data Sources** タブの下にある **New/Clear** をクリックします。
3. **Host Identity** の下で次の情報を入力します。
 - **Fully Qualified Domain Name:** 完全修飾ドメイン名は IP アドレスまたは `sys1.earth.company.com` などの完全ホスト名が指定可能です。ホスト名は **Domain Name Server (DNS)** に登録されている必要があります。
 - **Manager Port:** **Manager** が稼働しているポートです。**Check Connection** をクリックして接続が確立していることを確認します。

- **Data Source Name:** Oracle GoldenGate インスタンスの名前 (例 GG\$1)。この名前は Oracle GoldenGate DirectorClient インタフェースのデータソースとして表示されます。

注意 Oracle GoldenGate インスタンスがデータソースとして追加されると、完全修飾ドメイン名とポート番号はデータソースを削除してから再び追加しないかぎり変更できません。インスタンスがクライアントのダイアグラムにデータソースとして使用されている場合、これらのダイアグラムは再作成される必要があり、ロギングおよびレポーティング・ストリームはリセットされます。完全修飾ドメイン名とポート番号以外の属性はユーザー・ダイアグラムに影響せずに変更できます。

4. GoldenGate Info の下で、次の情報を入力または選択します。

- **Host Operating System:** ホスト・オペレーティング・システムのタイプ。Windows または UNIX に対して **WU**、NonStop Server に対して **NSK**、IBM z/OS および UNIX システム・サービスが稼働している OS/390 に対しては、**IBM** を選択します。
- **Database:** Oracle GoldenGate インスタンスが稼働しているデータベースのタイプ。

データベース・コード	データベース
DB2	DB2
MSSQL	Microsoft SQL Server
MySQL	MySQL
ENSCRIBE SQL/MP	Enscribe または NonStop SQL
ODBC	ODBC データソース (Open Database Connectivity 準拠)
ORA	Oracle
SYB	Sybase
TERA	Teradata
SQLMX	NonStop SQL/MX
VAM-Generic	Extract プロセスとの接続に使用されるベンダーアクセス・モジュールのデータベース (Teradata を除く)

- **GoldenGate Version:** システム上にインストールされている Oracle GoldenGate の X.x.x.x バージョン。たとえば、11.1.1.1。正しいパラメータが Oracle GoldenGate Director Client パラメータ・エディタに表示されるように、正確なバージョンを指定することが重要です。

5. Default DB Credentials の下に次の情報を入力します。

- **DSN:** Oracle GoldenGate が ODBC を介してデータベースに接続される場合は、データベースの ODBC データソース名を入力し、その他は空白のままにします。
- **Username:** データベース接続のためのデフォルト・ユーザーの名前。
- **Password:** ユーザーのパスワード。

6. Access Control の下で、次の情報を選択します。

- **Owner:** このデータソースを常時完全に制御する、「Account」タブ上にリストされているユーザーの 1 人。所有者が指定されていない場合は、すべてのユーザーがこのデータソースに関連するプロセスを表示したり、アクセスすることができます。

- **Host is observable:** 他のユーザーが Oracle GoldenGate Director クライアントからこのデータソースを表示するには、このオプションを選択してください。ホストを表示したり、Manager と Oracle GoldenGate プロセスを監視したりパラメータを表示することができます。ステータスや設定情報を照会できますが、プロセスを制御したり構成を変更できません。

7. 「Save」をクリックします。新しい情報が **Manager Information** リストに表示されます。

Oracle GoldenGate データソースを変更する手順

Oracle GoldenGate Director Server 上でデータソース情報を変更しても基本となる Manager プロセスには全く影響しません。

1. **Data Sources** タブの **Manager Information** リストで、変更する Oracle GoldenGate データソースを選択します。
2. **Host Identity**、**GoldenGate Info**、**Default DB Credentials**、および **Access Control** では完全修飾ドメイン名またはポート番号を除いてすべて変更します。
3. 「Save」をクリックします。

Oracle GoldenGate データソースを削除する手順

データソースを削除すると Oracle GoldenGate Director Server から Manager 情報が削除されますが、Manager プロセス自身は削除されたり、影響を受けません。このデータソースを使用するクライアントのダイアグラムは利用できません。

1. **Data Sources** タブの **Manager Information** で、削除する Oracle GoldenGate データソースを選択します。
2. 「Delete」をクリックします。
3. **Yes** をクリックしてインスタンスを削除することを確認します。
4. 「Save」をクリックします。

モニター・エージェントの構成

Oracle GoldenGate Director Server は Oracle GoldenGate Director Server に登録されている Oracle GoldenGate インスタンスの Manager プロセスを監視するスレッドを作成します。各スレッドは *monitor* と呼ばれます。

Monitor Agent タブを使用して次の操作を行います。

- Manager 処理と監視状態の表示
- 監視設定の構成
- 監視スレッドの開始と停止

Manager 処理と監視状態を表示する手順

1. Oracle GoldenGate データソースの監視状態を表示するには、**Monitor and Manager Status** リストの **Monitor Active** 列を表示します。
2. Manager プロセスが実行されているかどうかを確認するには、**Monitor and Manager Status** リストの **Manager is Alive** を表示します。
3. **Monitor and Manager Status** リストを更新するには、「Refresh」をクリックします。モニター・エージェントとそれに関連する Manager プロセスのステータスは **Monitor Agent** タブがアクティブになるたびにリセットされます。統計を更新するため、**Host Wait Seconds** で指定された時間が必要となる場合があります。「Refresh」により、その間隔が再び開始されます。

監視設定の手順

1. **Go Back Hours** ボックスで、取得するための最新のイベント履歴の時間数を入力します。イベントはクライアントのダイアグラムの **Oracle GoldenGate Log** で表示されます。たとえば、イベントを 5 時間分を取得できます。現在時刻から監視を始めるには、0 を入力します。
2. **Host Wait Seconds** ボックスで、**Manager** がステータス・レポートを送る前にイベントを待つ時間を入力します。値が低いほど、送られるレポート量が多くなります。値が高くなるとレポートは少なくなります。クライアントのダイアグラムで表示されるノンイベント・アップデートに時間がかかります。Manager プロセスが有効であることを確認するため、モニター・エージェントが指定した間隔でポーリングします。オペレーティング・システムのレベルで問題が起これば、Oracle GoldenGate がイベント・ログに書き込むことができない場合、このステータスが Oracle GoldenGate Director Web インターフェース内で反映されることをこのポーリングによって確認します。

注意 Oracle GoldenGate Director Server とホスト (Manager ポーリング以外) との間に別のタイプの通信があり、そこで Oracle GoldenGate プロセスへの変更の即時通信が含まれます。この通信プロセスは構成できません。

3. **Log Purge Hours** ボックスで、データをパージする前に Oracle GoldenGate Log で情報を保存する時間数を入力します。パージ機能により、ログをディスク上に適切なサイズで保持できます。
4. Oracle GoldenGate Director 電子メール・アラートを使用している場合、**Ignore Alert Events Older Than (Minutes)** を使用します。Oracle GoldenGate Director Server がシャットダウンされて再起動された場合、アラートは送られません。保持されるもっとも古いアラートの有効期間を分単位で指定します。
5. 設定した値をアクティブ化するには、「**Save and Restart**」をクリックします。これにより、ログ・パージ・スレッドとアクティブ監視スレッドが再起動されます。

監視スレッドの起動と停止の手順

- 1つ以上のOracle GoldenGateデータソースの監視を開始または停止するには、**Monitor and Manager Status** リストでデータソースを標準の選択方法で選択します。そして **Start Selected Monitor** または **Stop Selected Monitor** をクリックします。
- そのリストですべてのデータソースの監視を開始または停止するには、**Start All** または **Stop All** をクリックします。

デフォルトの接尾辞の設定

Oracle GoldenGate Director Server はホスト名または IP アドレスを完全修飾ドメイン名へ解決しようと試行します。Oracle GoldenGate パラメータ・ファイルで表示されている、非修飾のホスト名を修飾する場合に使用する Oracle GoldenGate Director Server のためのドメイン接尾辞を追加、変更、削除を行うには、**Default Suffix** タブを使用します。

たとえば、ドメインが anycompany.com で、ホストの完全修飾ドメイン名が sysa.anycompany.com の場合、anycompany.com を接尾辞表に入れます。さらに複雑なドメイン設定では、office.anycompany.com や offsite.anycompany.com のようなものを使用できます。

ドメイン接尾辞を追加する手順

1. 接尾辞リストで空白の行を表示するには、**Add** をクリックします。
2. その行に新しい接尾辞を入力します。
3. 「**Save**」をクリックします。

ドメイン接尾辞を変更する手順

1. 接尾辞リストで、変更する接尾辞を選択します。
2. 必要に応じて接尾辞を変更します。
3. 「Save」をクリックします。

ドメイン接尾辞を削除する手順

1. 接尾辞リストで、削除する行にカーソルを移動します。
2. 「Delete」をクリックします。
3. 接尾辞を削除することを確認して **Yes** をクリックします。
4. 「Save」をクリックします。

SSL の構成

SSL (Secure Socket Layer) は、暗号化されたリンクをブラウザと Oracle GoldenGate Director Server 間で確立するのに使用される業界標準の方法です。SSL 用に Oracle GoldenGate Director を構成する手順は、次の段階に分かれます。

- SSL キーおよび証明書の取得および保管
- Oracle WebLogic Server ドメインでの SSL の有効化
- Oracle GoldenGate Director Web からの SSL 設定のテスト
- SSL 用の Oracle GoldenGate Director Client の構成
- SSL 接続のテスト

SSL キーおよび証明書の取得および保管

1. 秘密鍵、公開鍵が含まれているデジタル証明書、および信頼できる機関から発行された信頼性のある CA 証明書を取得するには、組織のセキュリティ・チームに問い合わせてください。
2. JKS (Java KeyStore) に秘密鍵および信頼性のある CA 証明書を保管します。

これらのタスクの詳細は、Oracle WebLogic Server のドキュメントを参照してください。

Oracle WebLogic Server ドメインでの SSL の有効化

1. Oracle GoldenGate Director Server を起動し、**Start Oracle GoldenGate Director** コマンド・コンソールを表示して、次の手順に進む前に起動が完了していることを確認します。
2. Web ブラウザで、次の URL にある Oracle WebLogic Server コンソールに移動します。*hostname* は、Oracle GoldenGate Director Server をホストするサーバーの名前です。
`http://hostname:7001/console`
3. Oracle WebLogic Server の資格証明を使用して、Oracle WebLogic Server ドメインのホーム・ページにログインします。
4. **Domain Structure** で、「**Domain**」>「**Environments**」>「**Servers**」の順に展開します。
5. **Summary of Servers** の「**Configuration**」タブをアクティブにします。
6. *machine_name(admin)* をクリックします (例 **localhost(admin)**)。

7. **Settings for machine_name** の「**Configuration**」タブをアクティブにします。
8. 「**SSL Listen Port Enabled**」にスクロールし、チェック・ボックスを選択して、SSL サポートを有効にします。
9. 「**SSL Listen Port Enabled**」で、このドメインの SSL ポート番号を指定するか、デフォルトの 7002 を使用します。
10. 画面の下部にある「**Save**」をクリックします。
11. Oracle WebLogic Server コマンド・コンソールで、証跡エントリを表示し、指定した SSL ポート上で Oracle WebLogic Server が現在リスニング中であることを確認します。
12. Oracle WebLogic Server コンソールで、「**SSL**」タブをアクティブにします。
13. 「**Private Key Alias**」にスクロールし、キーストアの名前が Oracle GoldenGate Director で使用するために作成したものであることを確認します。そうでない場合は、Oracle WebLogic Server および Oracle GoldenGate Director Server によりアクセス可能なディレクトリ内にキーストアが保管されていることを確認します。

Oracle GoldenGate Director Web からの SSL 設定のテスト

1. Web ブラウザで次の URL にアクセスします (https の s に注意)。hostname は Oracle GoldenGate Director Server をホストするサーバーの名前です。
`https://hostname:7002/acon`
2. ブラウザより、接続が信頼できないものであることを伝えるセキュリティ・メッセージが返される場合は、「**Understand the Risks**」をクリックし、これらの手順を開始します。
 - 「**Add Exception**」をクリックします。
 - 「**Add Security Exception**」ダイアログで、「**Get Certificate**」をクリックします。
 - 「**Confirm Security Exception**」をクリックします。
3. Oracle GoldenGate Director に Oracle GoldenGate Director 管理者としてログインします。正常にログインできた場合は、SSL が正しく構成されています。ログインに失敗した場合、SSL の有効化手順を繰り返して有効なポート (デフォルトを推奨) を指定していることを確認し、SSL の有効化後に「**Get Certificate**」をクリックします。

SSL 用の Oracle GoldenGate Director Client の構成

これらの手順は、すべてのプラットフォームに関して同一です。この例は UNIX ファイル・システムの場合です。

1. SSL キーストアを Oracle GoldenGate Director Client マシンの任意のディレクトリにコピーします。このファイルには .jks の接尾辞が付いています。
2. Oracle GoldenGate Director Client インストール・ディレクトリにある etc/client-properties.conf ファイルを開きます。
3. 次のプロパティを更新します。これは Java プロパティ・ファイルであるため、プラットフォームが Windows である場合でもスラッシュのみを使用します。
 - キーストア・ファイルの場所を指定します。

```
weblogic.security.SSL.trustedCAKeyStore=C:/Oracle/Middleware1034/wlserver_10.3/server/lib/<certificate>
```

注意 このディレクトリ・パスは、ご使用のキーストアへの実際のパスと置換します。

- Oracle WebLogic Server でホスト名が確認されないように指定します。
`weblogic.security.SSL.ignoreHostnameVerification=true`
- 4. (オプション) プロパティ・ファイルで、SSL モードの使用中に必要なその他の JVM パラメータを初期化できます。

SSL 接続のテスト

1. Oracle GoldenGate Director Client を起動します。
2. 「SSL」をチェック・ボックスを選択して、localhost:7002 (SSL ポートを使用) にログインします。
3. 「File」メニューから「Logout」を選択します。
4. 「File」メニューから「Login」を選択します。
5. 「SSL」をチェック・ボックスを選択しないで localhost:7001 (この場合はデフォルトのポートを使用) にログインしても成功することを確認します。

付録 1

Java Runtime Environment (JRE) のダウンロード

.....

Oracle GoldenGate Directorソフトウェアとインストーラの両方は、Java Runtime Environment (JRE) バージョン 6 (内部バージョン 1.6.x) のコンポーネントに依存しています。多くの場合、システムが構成されたり、他のプログラムがインストールされた時にインストールされるので、この環境は既に存在しています。サーバーやクライアント・コンポーネントをインストールしているシステムがこの環境をもたない場合、Oracle から無料でダウンロードできます。

1. <http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html> にアクセスしてください。
2. **Java Platform, Standard Edition** の下に、「JDK 6 Update xx (**JDK** or **JRE**), where xx is the current update number.」が表示されます。いずれかをクリックします (JDK は JRE を含む)。Java JRE または JDK の他のバージョンまたはエディションを使用しないでください。

注意 このアップデート・リリースの内部バージョン番号は 1.6.x_xx-bxx です。外部バージョン番号は、6u21 です。これらの番号は、ご使用のシステムの画面に表示されます。

3. ご使用のオペレーティング・システムに適切な JRE または JDK をダウンロードするための画面上の指示に従います。
4. JRE で提供されるインストールの指示に従います。
5. JRE 実行可能ファイルのパスを保存してください。後で必要になります。
6. 次の「JRE 環境の確認」の手順に進みます。

JRE 環境の確認

UNIX

JRE をインストールした後、次のテストを実行し、システムにより認識された Java のバージョンが適当か検証します。

1. オペレーティング・システムのコマンド・シェルから次のコマンドを実行します。

```
java -version
```
2. コマンド出力に実際にダウンロードしたバージョンが表示されていることを確認します。1.6.0_xx-bxx になるはずですが。

Windows

JRE をインストールした後、Oracle GoldenGate Director Server をインストールする前に、JRE のパスを確認します。ここでは次の手順を行います。

- サーバー・コンピュータにインストールされている JRE バージョンを検証します。
- JAVA_HOME システム環境変数がインストールした JRE を指し示しているか検証します。この変数がない場合は変数を作成します。
- JAVA_HOME パスが Path システム環境変数の最初に表示されるか検証し、必要に応じて変更します。Oracle データベース・ソフトウェアのようなプログラムは、JRE インストール・ファイルへのパスを Oracle GoldenGate Director Server が予想する場所に置きます。

JRE バージョンを検証する手順

1. 「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログ・ボックスに `cmd` と入力し、Windows コマンド・コンソールを実行します。
3. 次のコマンドを実行します。


```
java -version
```
4. 次の内の 1 つを実行します。
 - 結果が `1.6.0_xx-bxx` を示している場合、6 ページの「Oracle GoldenGate Director Server のインストール」の説明を続けます。
 - 結果がそのバージョンを示していない場合、コマンド・コンソールを閉じて「JAVA_HOME システム変数を設定する手順」の次の手順を続けます。

JAVA_HOME システム変数を設定する手順

これらの手順では、インストールした JRE の JAVA_HOME システム変数を検証し、その後必要に応じて作成または編集します。

1. デスクトップ (Windows 2000) 上で、または「スタート」メニュー (Windows XP) で「マイ コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
2. 「詳細設定」タブをクリックして、「環境変数」をクリックします。
3. 「システム環境変数」の下で、JAVA_HOME システム変数を探します。
JAVA_HOME パスは、JRE をインストールするとき書き留めた場所を示しているはずです。
4. 次の内の 1 つを実行します。
 - JAVA_HOME システム変数が正しい場所を示している場合、「環境変数」ダイアログ・ボックスを開いたままで 24 ページの「JAVA_HOME システム・パスを設定する手順」の説明に従います。
 - JAVA_HOME システム変数が存在しない場合、または異なる場所を示している場合は、次の手順を続けます。
5. 「システム環境変数」で、次の内の 1 つを実行します。
 - 「新規」をクリックして、JAVA_HOME 変数を作成します。
 - 既存の JAVA_HOME 変数を選択し、「編集」をクリックします。ダイアログ・ボックスが開くので、この変数を編集します。
6. 「変数名」ボックスに大文字で JAVA_HOME と入力します。
7. 「変数値」ボックスで JRE への正しいパスを入力します。
8. 「OK」をクリックしてパスを設定し、ダイアログ・ボックスを閉じます。

9. 「**環境変数**」ダイアログ・ボックスを開いたままで「**JAVA_HOME** システム・パスを設定する手順」の説明に従います。

JAVA_HOME システム・パスを設定する手順

これらの手順により、JAVA_HOME パスが Path システム変数で必要とされる場所にあることを確認します。

1. 「**環境変数**」ダイアログ・ボックスで、「**システム環境変数**」の下にある Path 変数を探します。
2. JAVA_HOME へのパスが、パスのリストで**最初の**パスとして表示されていることを確認します。
%JAVA_HOME%\bin;
3. 次の内の 1 つを実行します。
 - この JAVA_HOME パスが文字列の中で最初のパスである場合、「**環境変数**」と「**システムのプロパティ**」ダイアログ・ボックスを閉じ、6 ページの「Oracle GoldenGate Director Server のインストール」の説明に従います。
 - この JAVA_HOME パスが最初のパスでない場合、次の手順を続けます。
4. 「**システム環境変数**」の下で Path 変数をダブルクリックして開き、編集します。
5. パス文字列内で JAVA_HOME パスを確認します。そこにある場合、リストの**先頭**にカット&ペーストします (セミコロンを含む)。そうでない場合は入力します。パスは %JAVA_HOME%\bin と入力されている必要があります。
6. 「**OK**」をクリックして「**システム変数の編集**」ダイアログ・ボックスを閉じます。
7. 「**環境変数**」と「**システムのプロパティ**」ダイアログ・ボックスを閉じます。

索引

.....

C

Client

- インストール 10
- 関連情報 3
- 実行 11
- 要件 6

D

- directorControl スクリプト 9
- Domain Name Server (DNS) 4

F

- Firefox, Mozilla 6

G

- GDSC Admin Tool.exe 14
- ggdirector-clientsetup.exe 10
- GGSCI 接続 3

I

- Internet Explorer, Microsoft 6

J

- Java Runtime Environment (JRE) 5,6

- Java Software Development Kit, 環境の検証 22

- JAVA_HOME, 検証 23

- JDBC 接続 5

- JRE, ダウンロード 22

- JRE のダウンロード 22

- JSDK, バージョンの検証 23

- JSDK のバージョン, 検証 23

M

Manager

- インスタンスの追加 15
- ポート番号 15

- Manager Information リスト 17

Microsoft

- Internet Explorer 6
- SQL Server 5

- Mozilla Firefox 6

- MySQL, リポジトリ・データベースとして 5

O

Oracle GoldenGate

- インスタンス
 - Server への追加 15
 - 定義 2
- サポートされているバージョン 4

Oracle GoldenGate Director

Administrator

関連情報 3

実行 14

使用 14

Client

インストール 10

実行 11

要件 6

Server

アカウント, 管理 15

インストール 6

関連情報 3

構成 14

実行 9

データソース, 定義 15

モニター・エージェント, 構成 17

要件 4

Web

関連情報 3

実行 11

要件 6

アーキテクチャ 2

関連情報 3

システム要件 4

データベース

関連情報 3

要件 5

Oracle GoldenGate Director によってインストールされる表 5

Oracle GoldenGate Director のアップデート 11

Oracle GoldenGate Director の要件 4

Oracle WebLogic Server 5

Oracle, リポジトリ・データベースとして 5

S

Server

アカウント, 管理 15

構成 14

コンポーネント 3

実行 9

データソース, 追加 15

モニター・エージェント, 構成 17

要件 4

SQL Server, リポジトリ・データベースとして 5

SSL サポート, 構成 19

startWebLogic スクリプト 9

stopWebLogic スクリプト 9

W

WebLogic Server 5

ア

アカウント, 管理 15

アンインストール

Oracle GoldenGate Director Client 12

Oracle GoldenGate Director Server 12

イ

イベント・ログ, 管理 18

イベント・ログのバージ 18

インスタンス, Oracle GoldenGate

Server への追加 15

定義 2

インストール

JRE 22

Oracle GoldenGate Director Client 10

Oracle GoldenGate Director Server 6

カ

画面解像度 6

環境, JSDK の検証 22

監視設定, 制御 17

監視の値の更新 17

完全修飾ドメイン名 2, 15

管理

- イベント・ログ 18
- データソース 15
- ユーザー・アカウント 15

キ**起動**

- Oracle GoldenGate Director Administrator 14
- Oracle GoldenGate Director Client 11
- Oracle GoldenGate Director Server 9
- Oracle GoldenGate Director Web 11

コ**構成**

- Oracle GoldenGate Director Server 14
- データソース情報 15
- モニター・エージェント 17
- ユーザー・アカウント 15

サ**削除**

- Oracle GoldenGate データソース情報 17
- イベント・ログ・データ 18
- ユーザー・アカウント 15

サポートされているバージョン 4**シ****システム変数, JSDK 23****システム要件 4****実行**

- Oracle GoldenGate Director Administrator 14
- Oracle GoldenGate Director Client 11
- Oracle GoldenGate Director Server 9
- Oracle GoldenGate Director Web 11

実行ステータス, 確認 17**ス****ステータス, 表示**

- Manager 17
- モニター・エージェント 17

ツ**追加**

- Oracle GoldenGate データソース情報 15
- ユーザー・アカウント 15

テ**データソース**

- Server への追加 15
- 定義 2

データソースの定義 15**データソース名 2, 16****データベース, Oracle GoldenGate Director**

- 関連情報 3
- 要件 5

ト**ドメイン, WebLogic Server 5****ナ****名前, データソース 2****ヘ****変更**

- 監視の設定 17
- ホスト情報 17
- ユーザー・アカウント 15

変数, JSDK 23**ホ****ポート**

- Manager 15
- Oracle GoldenGate Director Server 4
- Oracle GoldenGate Director Web 11

ホスト, 定義 15**モ****モニター・エージェント**

- 関連情報 3
- 構成 17

モニター解像度 6

ユ

- ユーザー・アカウント, 管理 15
- ユーザー・アカウントの作成 15

ロ

- ログ, 管理 18